

議長（滝内久生君） 質問順位 2 番、一つ、現庁舎の耐震補強及び先行移転を含む新庁舎建設について、二つ、旧下田グランドホテルの所得について、三つ、1 市 3 町による広域ごみ処理事業について。

以上 3 件について、5 番 矢田部邦夫君。

〔 5 番 矢田部邦夫君登壇 〕

5 番（矢田部邦夫君） 再興の会の矢田部邦夫です。一般質問の通告に従い、質問をさせていただきます。

下田市の今後を左右する重大な局面を迎えております。現庁舎の耐震補強及び先行移転を含む新庁舎建設について、旧グランドホテルの取得について、1 市 3 町によるごみ処理事業についての事業計画の 3 点を質問します。

1 点目は、現庁舎の耐震補強及び先行移転を含む新庁舎建設について。

1 月 12 日に、新庁舎建設における先行移転方針が財務課・企画課主催で提示されました。24 日に 2 回目の意見交換会があり、席上、私は市長の説明を求めましたが、実現することなく 2 月 18 日の全員協議会で予算計上の話が出てまいりました。1 月 12 日の内容は、現庁舎の本館はそのまま、耐震補強は西館へ約 1,200 万円、別館へ約 600 万円、補強設計費を約 550 万円、合計約 2,350 万円と、稲生沢中学校の改修費約 5 億 8,000 万円、仮設議場整備費用約 3,000 万円、中学校改修設計費用約 2,000 万円、合計約 6 億 3,000 万円が提示されました。24 日の 2 回目の意見交換会では、新庁舎建設を含む総事業費を約 30 億円を上限とする方針が示されました。また、2 月の 18 日の全員協議会では、現庁舎耐震補強計画・設計業務委託約 2,350 万円と稲生沢中学校校舎改修工事設計業務委託 2,000 万円が、令和 4 年度予算計上されました。

このような数億円単位の大きな事業が、僅か 1 か月半で議会に予算計上されることに怖さを感じております。あまりにも拙速で十分な議論が行われたとは言えないと思います。下田市議会としてこれでいいのでしょうか。私は市民の代表として責任を果たせないと強く感じております。

企画課長にお尋ねします。

一つ、一昨年の新庁舎建設の総事業費約 39 億円がネックとなり、事業費のコスト削減することを前提に取り組んできたと思いますが、今回提示された内容は、あまり変わらないように受け取りますがいかがでしょうか。

2 番目、1 月 12 日に先行移転方針が提示され、庁舎建設の総事業費 28 億から 32 億円と新庁

舎工事に中学校改修を含む概算費用が18億から22億円が示されました。あまりのスピードに私は戸惑っています。新年度の予算計上を含めまだ時間がありますから、議員との議論が必要ではないでしょうか。

それぞれ回答をお願いします。

財務課長にお尋ねします。

1、庁舎は、稲生沢中学校の再利用方針が示されたが、空いた下田東中学校・稲梓中学校の問題はどうするのでしょうか。回答をお願いします。

市長にお尋ねします。

一つ、一昨年、令和2年10月に新庁舎建設を自ら延期を決定したのはなぜか、回答をください。

2、延期されたことで令和2年度の緊急防災・減災事業債2億2,640万円のうち、土地購入費1億4,440万円は、位置条例が延長されたことで、現在の場所で建設すれば適用される可能性はあると思われるが、設計費8,240万円は借金となったはずです。この件について、市長はどのように考えていますか。それぞれ回答をお願いします。

2点目の旧下田グランドホテル取得については、昨年12月議会において、7対5で否決されたにもかかわらず、僅か3か月しか経過していないのに再度提示されました。12月に否決された内容は、ホテルの中の状況を何も調査しておらず、また、取得後の用途、解体費用に要する総事業費、返済方法など、具体的なことは何も決まっていない状況の中で提示されました。令和3年4月20日に破産管財人弁護士から低廉な価格で市が購入できないか検討してほしいと口頭で電話があったとのことでした。行政のやることとしては大変安易でずさんではないかと、12月の総務文教委員会の席上意見を述べ、しっかりとした計画を提示するべきではないかと指摘しました。

参考までに、現在、全国における廃墟化したホテルは800か所ぐらいあるそうです。例えば、有名な鬼怒川温泉の廃墟ホテル3棟は、当時、アスベストが使用されており、解体費用が1棟につき約10億円、3棟で約30億円を要することで行政は手をつけられず、そのままの状態となっております。また、淡路島の高さ100メートルの大観音像は、当初は人気があり、観光客もあったようですが、建立された方は亡くなり、奥様も亡くなって、現在は民法第959条により国の保有となり、今月から約8億8,000万円をかけて解体することになったようです。

全国の各自治体も廃墟となった建物処分については大きな悩みとなっている状況です。国

も法律の制定を検討するような動きも出てきているようです。

このたびの旧下田グランドホテルの取得については、鬼怒川温泉の廃墟ホテルと同時期ぐらいに建設され、アスベストは高い確率で使用されていると思われます。所有すれば当然解体費用も下田市の財政に大きな負担となります。

2月18日の全員協議会で12ページにわたり説明がありましたが、ほとんど状況と検討の資料説明で、具体的な説明内容に乏しく、また、調査内容も不十分だし、後の計画・対策についてもはっきりしておりませんでした。

地元の方々は心配でしょうが、私は市の財政状況を考えれば、今すぐ取り組む時期ではないと思っています。

担当課長にお尋ねします。

旧下田グランドホテルの土地建物の固定資産評価額は幾らか。取得費100万円に登記料は含まれていますか。

2番目、2億円の根抵当権が設定されているが、本当は幾ら借りているのか、明確にして本当の金額を提示してください。これは極度額2億円になってますので、最高が2億円ということで実際にはどのくらい借りているのか分かりませんので、そこを回答お願いします。

市長にお尋ねします。

取得の件は、昨年4月頃管財人から話があり、11月の全員協議会報告までの7か月の間、市長自ら県、国へ働きかけて支援を求め、お願いしましたでしょうか。

令和4年度予算に計上しておりますが、私には何が何でも取得しようと強引に映ります市長は市の財政状況、借金額は把握されていますか。

それぞれ回答をお願いします。

3点目は1市3町による広域ごみ処理事業について。

昨年の10月26日に、南伊豆地域ごみ処理事業報告会で、環境対策課長から説明がありました。その席上、質問させていただき、基本構想を作成したということは、現在の場所で決定したのか確認いたしました。続いて市長に質問し、市長と語る会の河内区開催のとき、市民から現在の場所で決定したのかとの問いかけに、市長は、環境アセスメントの調査をしてから調査結果を基に決定する方向だと回答していました。本来ならば、基本設計を作成する前に環境アセスメントの調査は済ませておくべきで、順序が逆だと私は思っております。

環境対策課長にお尋ねします。

基本構想と基本計画作成に要した費用額と委託先を教えてください。

これから計画されている環境アセスメント調査にかかる期間と委託先、費用額も教えてください。

教育長にお尋ねします。

今年4月、下田中学校が統合され開校予定ですが、子供さんを預かる立場として、現在地の建て替え場所に対し、どのような考えをお持ちなのかお尋ねします。

市長にお尋ねします。

環境アセスメントの調査をする前に、子供さんを持つ親、地元住民への説明が先で最も重要だと私は思っていますが、市長の考えをお聞かせください。

それぞれ回答をお願いします。

終わりに、旧下田グランドホテル取得、広域ごみ処理事業、新庁舎建設関連の事業と、今後の下田市を大きく左右する大きな事業が短期間の間に急速に決められていくことに、私は大変危機感を抱いております。私は、現在の下田市は岐路に立っていると思っています。違った角度からの視点で、いかに税金の無駄遣いにつながっていくのかを質問を通しながら私なりの考えで分かりやすく努めていきたいと思っております。

以上、私の趣旨質問を終わります。

議長（滝内久生君） 当局の答弁を求めます。

市長。

市長（松木正一郎君） 多岐にわたる御質問の中で、幾つかは先ほどの施政方針演説でお話ししたものがございますので、そちらで御勘弁いただきたいと思いますが、まず何よりもスピード感を持って事に当たるべしというのが、矢田部議員のこれまでの御指摘だったと思います。そこで、私どもとしては、庁内で迅速に様々な取組をまいりまして、今ようやくここに至ったということになります。

さて、令和2年11月の新庁舎建設事業延期については、当時、新型コロナウイルスについて十分な知見のない中、感染拡大を何とか防がなければいけないということで、全国多くの自治体で大型事業が凍結されておりました。下田市でも、やはり財政面への影響が大きく、加えて稲生沢川の洪水想定による技術的課題への対応、こうしたことを大きな課題としておりました。また、さらに私は、新庁舎建設予定地の周辺及びこの現庁舎の跡地の利用、こうしたことについて都市計画としての必要な対応ですとか、公共交通等アクセスの問題、そういった庁舎移転に伴うまちづくりへの影響を十分検討し、その上で総合的に判断する必要があったということで、建設事業の延期を決断したわけでございました。

もう一つ、議員御指摘の緊急防災・減災事業債を充当したその設計費につきましては、その後生じた各種の課題、浸水想定ですとか、こうした社会的課題に対応するためのものであり、不可避なものと考えております。

私のほうからは以上で、ほかの御質問につきましては担当課から御返答申し上げます。

以上です。

議長（滝内久生君） 企画課長。

企画課長（鈴木浩之君） それでは、私のほうから庁舎の関係の質問について答弁させていただきます。

まず、1点目の総事業費についてでございます。令和2年度当初予算計上の工事費を根拠に算出した前回の新庁舎建設事業費につきましては、36億9,000万円でございます。今回、先行移転方針の中で示させていただいております稲生沢中学校を活用した新庁舎建設概算事業費は、28億から32億円と想定しております。全体で見れば約5億円から8億円の削減となっておりますが、工事費につきましては、約7億円から11億円の削減となっており、中学校活用によりまして相応の効果があるものと考えております。また、今回の中学校活用につきましては、事業費だけではなく、将来的に縮小が予想されます施設規模の変化への対応ですとか、既存施設の活用による新築工事の減少による環境への負荷の軽減、または洪水対策等防災対策の強化など、様々な効果も合わせて見込めるものと考えております。事業費、施設規模等につきましては、今後の基本計画改定や設計作業等におきまして、引き続き適切な内容や規模となるよう検討を進めてまいりたいと考えております。

2点目の議論が不足しているという点の御質問でございますが、令和2年11月の事業延期表明以降、様々な検討を進める中で、中学校や現庁舎の建物調査の結果や利活用方法等につきまして、全員協議会等を通じて報告をしてまいりました。また、今年の1月には、計画案等について議会の皆様とも意見交換会も開催し、議員の皆様のお意見を伺う機会を設けてまいったところでございます。

今回は、当初予算としまして関連議案を提出させていただいておりますので、今議会の中でも説明してまいりたいと考えております。また、今後につきましても、事業の進捗に合わせて必要なタイミングで状況報告、意見交換等をお願いしながら新庁舎建設事業を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 財務課長。

財務課長（日吉由起美君） 私からは、稲生沢中学校の再利用の方針が示されたが、空いた下田東中学校・稲梓中学校はどうするんでしょうかというところにお答えしたいと思います。

まず、市の公共施設につきましては、下田市公共施設等総合管理計画の中で、その保有量、それから更新費用を共に削減することとしております。また、新中学校建設事業においても、公共施設の集約化に係る地方債として、公共施設等適正管理推進事業債、公適債といいますがけれども、この起債を一部活用しまして施設整備を実施しております。

稲梓中学校の校舎につきましては、昭和37年建築と建築年次が最も古く、安全対策の観点から、また、公共施設の削減目標や、ただいま申し上げた起債の借入れ条件から、新年度予算で解体工事費を積算する委託料を計上したところでございます。現在、公共施設等総合管理計画の改定作業中でありまして、空いた中学校施設やその他の市が保有する財産の活用や処分の考え方についてまとめているところでございます。

それから、次に庁舎の既に借入れしました緊急防災・減災事業債の関係ですけれども、そちらの借入れ済みの設計及び土地に係る起債、緊急防災・減災事業債につきましては、これまでも御答弁させていただいてるところではございますけれども、現在、新庁舎の建設の計画のほうの基本構想、計画のほうを改定しているところもありまして、今後の計画が明確になり次第、繰上償還の可能性も含めてその取扱いについて具体的に相談してまいりたいと思っております。

私からは以上です。

議長（滝内久生君） 建設課長。

建設課長（高野茂章君） 私のほうからはグランドホテルの件で、取得費100万円に登記料は含まれているのかという質問と、2億円の根抵当権の中で本当は幾ら借りているのか、本当の金額を提示してくださいという質問でございますが、取得費に登記料は含まれてございません。市の嘱託登記で行うため無料でございます。根抵当権の本当の金額なんですが、所有者の負債等に関する情報は得ておりません。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 税務課長。

税務課長（佐藤政年君） 旧下田グランドホテルの土地建物の固定資産税評価額は幾らかということについては、固定資産税をはじめとする市税に関する事項につきましては、地方税法第22条の規定によりましてお答えすることができません。

議長（滝内久生君） 教育長。

教育長（佐々木文夫君） 私のほうからは、現在地の建て替え場所に対するどのような考えを持っているかという質問に対してお答えさせていただきます。

教育委員会では、中学校、認定こども園を所管しており、そこに通う児童生徒の健康については、大きな関心を持っています。現焼却施設におきましては、公害測定や精密機能検査が実施されており、環境基準を遵守した維持管理が徹底されております。また、新たな施設では、環境性能に優れた技術を導入するため、生活環境への影響も現状よりさらに低減されるものと期待しております。また、今後、環境教育にも活用できるよう検討してまいります。

私からは以上です。

議長（滝内久生君） 環境対策課長。

環境対策課長（鈴木 諭君） それでは、私からは1市3町による広域ごみ処理事業についていただきました御質問について回答いたします。

初めに、基本構想作成と基本計画の作成に要した費用額と委託先、それから、今後計画されていく環境アセスメント調査に係る期間と委託先、費用額についてお答えいたします。

基本構想に係る委託業務につきましては、平成30年度から令和2年度執行の南伊豆地域広域ごみ処理基本構想再策定支援業務が3年間で合計560万8,440円、これを引き継ぐ形で、本年、令和3年度に南伊豆地域広域ごみ処理基本構想再策定業務ということで、こちらが237万2,700円、合計で798万1,140円。委託先は、一般財団法人日本環境衛生センターでございます。

基本計画につきましては、令和4年度当初予算に委託費用として1,210万円を計上しております。

それから、生活環境影響調査でございますが、こちらは四季を通じた現地調査が必要であり、調査期間として12か月、これに準備期間や予測分析評価に要する期間を加えて、全体で18か月を見込んでおります。令和4年度当初予算におきまして、令和4年度から5年度の2か年の債務負担で6,050万円の委託料を計上しておりまして、こちら入札等の契約手続を経た上で、令和5年度にかけて実施する予定であります。

それから、環境アセスメントの前の父兄や地元住民への説明が先ではないかという御質問についても私のほうでお答えいたします。

昨年5月、西本郷区で地域住民に対する意見交換会並びに7月には市民文化会館におきまして市民説明会を開催しております。また、広報しもだで昨年の7月、それから、この3月4日の広報等でページを設けて広報しております。また、昨日には、南伊豆地域の広域ごみ

処理事業の企画としまして、南伊豆地域のごみ減量化、リサイクルを考えるワークショップというものを開催いたしまして、高校生を交えて意見交換という形で会議を設けました。

今後につきましてですけれども、生活環境影響調査の実施に当たりまして、現地調査等についての説明を行う予定はあります。また、広域ごみ処理事業につきましては、ごみの減量化やリサイクルの推進、こちらについても不可欠であるということから、地域の皆様により理解を深め、協力をいただけるような形を取りまして、引き続き情報発信や丁寧な発信に努めてまいりたいというふうに考えております。

私からは以上です。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 一つ答弁漏れがございました。先ほどは庁舎の問題でしたけれども、旧グランドホテルの取得に関して、市長自ら支援を求めたのかと、あるいは市の財政状況、これについては先ほど言ったつもりなんです、これについて改めて申し上げます。

私からは、県庁の関係する課、その課長級に対して連絡し、相談をし、支援を求めているところでございます。さらに、有識者や国の関係の方々に対しても相談しております。

もう一つの市の財政状況、つまり借金についてということですが、財政健全化判断比率、これが毎年9月の定例会で御報告いたしております。これが自治体財政の指標となるからでございます、令和2年度の決算では、実質公債費比率は3か年平均で6.4%、将来負担比率は57.5%となっております。地方債そのものにつきましては、令和4年度末残高見込みについては、施政方針の巻末19ページに記載のとおり、全会計合計として188億7,432万円でございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 再質問の前に、昨年9月の一般質問で、よい結果を出すためには事業、何かを始めるときの手順として、いろいろな要素が備わった上で検討し、判断し、決断し、実行、行動に移すことだと思っていますと述べています。この一連の流れの中で、判断力がとても重要になるとしています。結果が悪かったら、考え方、判断が間違っていたこととなります。よって、無駄が発生し、無駄遣いにつながります。また、失敗する原因にもなるし、場合によっては取り返しがつかなくなることもなりますと伝えました。下田市の責任者としての市長の判断が市を左右する立場にあることを踏まえた上で質問をしていきたいと思っております。



議長、それでは一問一答式でお願いします。

まず、企画課長の先ほどの答弁ですけれども、さっぱり分からないですね、私の具体的な質問にはなっていないと思います。私が言うのは、あまりのスピードに、こんなに拙速に事業を進めていいかどうかと。だからもっと議員との議論が必要じゃないかということ言ってるわけですよ。それに対して、課長の質問は、今までどおり、計画どおり進めていくような話で、私の納得できるような説明ではなかったと思います。

一つ私が思ってるのは、現在、下田市の人口というのが、実数はもう2万人を割ってると思いますよ、2万人を。現庁舎、2,350万円かけて、いいですか、ここが大事なところで、2,350万円かけて耐震補強するわけですよ、解体するんでしょう、将来。解体するのに何で2,350万円お金使うんですかということですよ、僕は。

それと、中学校の改修工事、これに全て全部で6億3,000万円かけるわけですよ。これからの世代の人たちにこんな仕事残していいんですかと僕は思うんだよね。というのは、新庁舎建設が令和8年12月と言いましたよね、課長ね。令和8年12月にコンパクトに造るという話がありました。とんでもない話ですよ、私から見ると。新庁舎建設をするんだったら、そっちに6億3,000万円かければいいじゃないですか。私はそう思うんだよね。無駄になるんじゃないかということ言ってるわけです。その辺は1年何か月かけて構想を練ったかもしれませんけども、私としてはそこら辺が非常に、これからの世代の人たちにそういう、もし出来上がったときに皆さんが、稲生沢中学校の市役所を見て何と思うかですよ。私はもう先が見えるんですよ。だから、そういうことを考えた、踏まえた上での回答をお願いします。

議長（滝内久生君） 企画課長。

企画課長（鈴木浩之君） まず1点目の現庁舎の安全対策の費用でございます。こちらにつきましては、今年度実施しました現庁舎の安全性の調査の中で、改めて危険性が判明したというところでございます。こちらにつきましても、本来であれば早急に全施設を耐震補強、あるいは耐震すべきという考え方もあろうかと思っておりますけれども、たまたま同時に行われております新庁舎の建設工事と合わせまして、全体としてできる限り時間、コスト、そして工事内容、こうしたものの無駄がないような形で調整をしていっているというところが実態でございます。そうした中で、今回は現庁舎、本館につきましては耐震補強をせず、西館と別館について一部耐震補強をした上で新庁舎の工事と合わせたスケジュールで進めていきたいということが最も時間、コスト内容が適切なものということの判断をしているところでございます。

中学校の改修費 5 億 8,000 万円につきましては、当然ながらそれ単体で見れば確かに経費として出ている状況でございますが、その後、新庁舎の一部として使用していくための改修経費、この経費でございますので、当然ながら全く無駄になるという経費ではなく、継続してその後も庁舎として使っていくための改修費ということで見込んでおりますので、当局としては全体の中で適切な事業計画の中で進めているものというふうに考えております。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5 番 矢田部邦夫君。

5 番（矢田部邦夫君） あのね、課長の話は分かりますけども、だって解体するんでしょう、現庁舎。2,350 万円かけるんですよ。それから、中学校の改修工事に、さっき 5 億 8,000 万円と言ったけど、改修工事だけで 5 億 8,000 万円で、仮議場で 3,000 万円、設計費に 2,000 万円、この 2,000 万円が新年度予算に計上されてるわけですよ。こんなスピードで、こんな多く、十数億のお金の事業がかかるものを、こんなに簡単に進めたら僕はね、市民に対して議員としての代表としてとてもじゃないけど僕は責任持てないんだよね、正直言って。

もう一つは、この 28 億から 32 億、これは多分工事始まったらもっとかかるようになると思いますよ、私は予想しますけど。だったら、20 億以内で新庁舎全部建てればいいじゃないですかと僕は思ってるんですね。熱海の市役所、何億でできたと思ってますか。16 億ぐらいでしょう。南伊豆町の役場、どのぐらいで建ってますか、10 億以下ですよ。だから、そういうふうなことを考えれば、決して不可能じゃないということ。その辺をまず考えてほしいと。

それから市長に、質問がまだいっぱいあるんで、たくさんあり過ぎてちょっと時間が足りなくなっちゃうんですけど、市長に先ほど 8,240 万円の設計費、この件については、私は再質問の前に仕事の手順の話をしました。これ完全に判断ミスだと私は判断してるんですね。だから借金になったんですよ。その責任はどうされるんでしょうかということですよ。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） さきの全員協議会的时候も申し上げましたけれども、過ちを改めざる。これを過ちというと、こういったことわざがございます。私たちは 1 回スタートしたからそのまま全部突っ走るということは望ましくないというふうに私は思います。

今回の、例えば、この現庁舎への補強、これについても矢田部議員は調査する必要さえない、とっとと向こうへ行けばいいんだと、こういうようなお話でございました。

〔発言する者あり〕

市長（松木正一郎君） 失礼しました。すぐに向こうに移るべきだと、こういうふうにおつ

しゃいました。目の前の危険性を把握するための調査を不要というふうに議員はおっしゃったというふうに捉えておりますけど、これでよろしいでしょうか。別に回答は必要ありませんけれども。

一方で、今回の私どものそのやり方、つまり、隣接する中学校の校舎は活用できる。それを恐らく20年ぐらいしたら寿命になるとしても、これによって新設する庁舎の規模をコンパクトにすることができたわけです。将来は、デジタル技術の進展によりまして、恐らく市庁舎の空間的な必要性というのは相当縮まってくるんじゃないかというふうに考えています。加えて、議員御指摘のとおり、人口も減少してきます。市役所はいかにあるべきかということを考え、かつ、今あるものを活用する。こうした経済的にも効率的で、かつ、脱炭素にも寄与するこの計画について、有識者からは時代を先取りしたものだというふうな高い評価をいただいたところでございます。今後も健全な批判精神において、私どもも自分たちに対して常に見直しを図るように考えてまいります。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 市長ね、答弁には気をつけてください。私はそんな言い方してませんから。

それと、中学校のことについて、僕は前に意見を言ったことがあったと思います。議会で。これは下田市だけの問題ではなくて、賀茂郡5町の問題も含めた上で僕は発言します。これ、県と国の機関が下田には集中してるんですよね。例えば、ハローワークとか、税務署とか、いろんな機関があります。そこを中学校のそこへ持っていけばいいじゃないですかと意見言ったことがあったと思います。そういう周りの、下田市だけで物事を考えるんじゃなくて、1市5町、賀茂郡で全体を考えて検討するなら、私は分かるんですよ。それがちょっと足りないんじゃないかなというふうに感じます。

それから、8,240万円はもうこれは令和2年の9月から利息が開始されてます。令和2年度の話ですけど、何で8,240万円が生じたかという説明をします。緊防債を2億6,640万円借りて、12月までに入札して、3月までに着工すれば交付税が出たと思うんです。それが延期したことによって8,240万円が借金になったと。ただ、土地の件に関しては、今の位置に変えないということであるので、これはどうなるか分かりません。

それともう一つ、市長は、この延期した理由を、浸水深2.2メートルが発表されたと。それから、コロナの財政問題ということを述べております。このスケジュール表を見てくださ

い。これを。これ盲点があるんですよ。いいですか、この中で、一番最後のほうかな、新庁舎建設の工事費は18億から22億になってるんだけど、下のスケジュール、これを見てください。令和4年と令和5年で基本設計、実施設計、2年も要するんですかということですよ、僕は、2年ね、必要ないと思いますよ、僕は。だって令和2年にあれだけ仕事が進んでたわけですから。生かしてもらえばいいじゃないですか。

それともう一つが、令和8年の12月に新庁舎が開庁すると。いいですか、市会議員の選挙は来年ですよ。市長選は再来年ですよ。これが原因じゃないですか。僕は思うんだけど、私の思いですよ、河内のあその場所では建てたくないがためにこういうふうな流れになってるんじゃないでしょうかね。私はそういうふうに推測してます。だから、そこら辺が私は違うんじゃないかということ言ってるんですよ。だから、これで本当に新庁舎、僕はこの浸水深2.2メートル、私言ったじゃないですか、あそこは浸水したら海岸までに住居を構える人たちの安全保障はどうするんですかと僕言ってますよね、命の保障は。財政問題、これは後から出てきますけども、今度、グランドホテル、また新しいのが出てきたじゃないですか。地方債を借りて、利息さえ払えばいいというふうに僕には受け止められるんですよ。だったら、このコロナの財政問題真ただ中ですよ、コロナの問題は。何でこういう話が出てくるのか理解できない。その点ちょっとお願いします、市長。回答なければいいです。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 最後におっしゃったグランドホテルにつきましては、今タイミングを逃してはならないということを、先ほど来、建設課長等が申し上げますので、それで御理解いただければと思います。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 下田グランドホテルに移行します。庁舎の回答については納得のいく説明が一つもありません。ですからぜひ、この後も予算計上、後から出てきますけども、もう一回考えていただいて、議員間同士で話し合いをする機会を持っていただきたいということ。今、時間ありますよ、まだもう少し。あんまり急がなくても。

グランドホテルの件について話します。

グランドホテルについては、私も旧下田グランドホテルはこのまま放置するわけにはいかないと思っています。ただ、市の財政状況を考えると、今の時期ではないんじゃないかというふうに私は思ってるんですよ。今の時期ではないと。別の方法として県と国に相談して

るというけども、これ電話相談じゃ駄目ですよ、こんな大事な話。市長自らが県庁に行って、県知事に話して、支援してもらおうことを考えたらいいじゃないですか。私そこが大事だと言うんです。市民に全部負担させるんじゃないで、市長として、いいですか、市長として市のために皆さんに負担をかけることがないように、あなたが努力してやるべきじゃないですかということ言ってるんですよ、分かりました。だからね、私が言うのは、これから国のほうでも法律の制定があるかと思えます。この件に関しては、多分、例えば、マスコミとかいろんな報道がありますよね、ここ2か月ちょっとの間に。これ12月に否決されたものが3月に提示されるというのは、どうしても僕理解できないんでね。これは多分、市長自身が一番グランドホテルを取得したいという考えがあるんじゃないでしょうかね。なければこういう話には展開しないですよ。流れを見てると、マスコミとか報道の人たちは、確かに報道するのが仕事ですから。でも、支援はしてもらおうことはできないんですよ。お金を出してもらうところは国、県なんですよ。そこをわきまえてほしいということ。だから、そこが欠けるんじゃないかというんです、僕は。だから、本当はこの話を出す前に、国、県に働きかけてやってほしかったというふうに思ってます。

先ほど登記料のことが出ましたけど、以前は登記料は含まれてるという、100万円の中に含まれてるという話がありましたけども、とんでもない話ですよ、これ。登記料は100万円や200万円じゃ済まないですよ、数百万円ぐらいかかるという話を私聞いてます。

それから、固定資産税評価額、回答ができない。こういう危なっかしいものに対して、私はとてもじゃないけど賛同できないですね、怖くて。だから、例えば、ちゃんとした回答を見て、口約束だよ、口約束で、いいですか、課長、口約束で管財人がそうしてくれるという話だけじゃ、僕は市民に対して責任果たせないです、怖くて。本当怖いですが、僕は、議員として。そのぐらい議員というのは市民に付託されて、重責を担ってるんですよ。そこを分かってほしい。そこを僕は物すごく考えてます。だから、安易な考えでは僕はやりたくない。下田グランドホテルについては、もう少し、今の時期じゃなくて、確かに管財人のほうから話があるけども、今すぐやらなきゃならないということはないと思うし、先ほどから課長が所管以外で答弁ずっとしてきてる、今までもやってきたけども、その辺についてもやっぱり所管外の人が回答してて、今度、公園ができたからという話がありましたけども、その辺についてもやっぱり考えていかなければならない。

それからもう一つ、アスベストだけじゃないと思いますよ。高濃度PCB、これも発がん性が非常に強い。電気関係の設備です。これね、20日の日に、多分皆さん、職員が調査に行

ってますよね。そのときどうだったですか。ありましたか、なかったですか、それだけ教えてください。

議長（滝内久生君） 質問者にお尋ねいたします。ここで休憩したいと思います。よろしいですか。

5番（矢田部邦夫君） 結構です。

議長（滝内久生君） 2時15分まで休憩します。

午後1時59分休憩

午後2時15分再開

議長（滝内久生君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

当局の答弁を求めます。

建設課長。

建設課長（高野茂章君） それでは、登記料につきましては、所有権移転登記だけですので、うちのほうの嘱託登記ということで、登録免許税が減免になるため、無料になることは間違いないです。

P C Bの話なんですが、1月20日に現場調査に入りまして、我々もアスベストとP C Bが一番重要視しているところですので、充電設備、キュービクル施設、高圧充電施設ですね、それがあつたのを探したんですけど、ちょっと見つけることができなかつたというのが現在の状況でございます。あれば当然P C Bがあつたというのは分かりますので、それをみんなで探したんですけど、ちょっと見つけることが、充電設備についてはできませんでした。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 今、課長のほうから説明のあつたP C Bというのは、これ国の指導で今月の3月31日までに高濃度P C Bは撤去しなかつたならないということになってると思います。今の回答だと、あるかないかまだはつきり分らないような感じがしたんですけど、もし出てきたらどうされるんですかということです。低濃度と両方あるんだよね。低濃度は5年先だと思いますよ、5年くらいの猶予期間があると思います。これは、変圧器とかコンデンサーとか、そういうのの中で使われてる、いわゆる絶縁油、それだと思いますよ。それが怖いんですよ。だから僕聞いてるんです。その点は、今の回答だと、必ずあるかないかとい

うのは今のところではないというふうに言っていたように聞こえますけども、どうなんでしょうか。

議長（滝内久生君） 建設課長。

建設課長（高野茂章君） 1月20日の調査時点では、その施設が見つからなかったということでございます。

以上です。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 後から出てくる可能性はあると思いますね。それはいいですね、確認しておきます。

それから、先ほど税務課長のほうから回答をいただきました。固定資産評価額は回答できませんという話がありました。こんな状態でグランドホテルを買い取って、もし仮に将来それを所有権を持った後、どういう展開していくかというのは僕ぞっとしますね、考え方として。その辺がまだはっきりしてない。

それから、先ほど根抵当権の、これは渡邊議員も言っていましたけども、2億円が設定されてるんですよね。この中で、これは極度額ですから、あくまでも最高が2億円であって、実質はどのくらいあるかということです。それは分からないでしょうかね。回答できる課長がいたらお願いします。

議長（滝内久生君） 建設課長。

建設課長（高野茂章君） 根抵当2億円の実際の幾ら借り入れてるかということにつきましては、負債者の額ということで、我々は情報を得てないところでございます。

以上です。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 今のような曖昧な回答だと僕はとても自信がないですね。

それともう一つは、質問したことに対してちゃんとした回答が得られるのであればいいんですけども、正直言って口約束とかそういったものだけでは、市民の付託を受けてやってる議員としてはちょっと怖くてできないですね。

それともう一つ、9億というふうな話がありましたよね、公園を含めてで。これ実際ね、先ほど僕が話ししましたが、鬼怒川温泉のホテルというのは1棟10億ですよ。あれだけの8階建てで長さのあるホテル、なおかつ重機を上げるのも容易じゃない。結構金かかると思います。9億じゃ済まないと思いますよ、多分。解体費用だけでそのぐらいいっちゃん可能

性もあるんじゃないかな。半分は地方債と、半分は国からの補助と、この辺も本当ははっきりしてるんですかね。もし9億、半分は地方債、半分は国で、地方債といたらこれ借金ですからね、返さなきゃならないわけですから。

今の、先ほど市長に回答いただいた、今、下田市の借金というのは、先ほど施政方針に出てましたけども、地方債が103億円、特別会計の水道関係が77億ちょっとあるんですよ。合わせて188億という数字を出したんだと思います。下田の人口からいって、今この三つの事業をやるのにどうなんだろうかなと僕、すごい心配してるんです。その辺について当局はどのように、市長はどのように考えてるか、教えてください。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 先ほども申し上げましたけれども、私たちはまずそこにある危険性をしっかり把握することが重要です。表に表れていないリスクのことをハザードというふうに申しますけども、何かそのハザードがありそうだから、だからやめるといった方向には、私は行かないと思います。市民の声を矢田部議員はどう考えてらっしゃるんでしょうか。陳情が地元から提出されている。近年、熱海の土石流、一つの大きな教訓となったわけです。お金や手順の煩雑さよりもまず人の命をどうやって守るのかといったことに心を砕くべきだというふうに私は思います。

なお、その意思決定に当たっては、私は、先ほども申しましたけども、自分が必ずしも正しいとは思わないようにして、健全な批判精神でもってみんなで議論する。そういったものを政策会議として、今、私ども下田市役所は毎週1回やっています。週1回、しっかりとそのときそのときの議題について、幹部の職員、それから関係する職員もオブザーバーとして入ってもらって、万機公論に決すべしという、そういう考え方で物事を進めているところでございます。こっちのほうがりたくて、こっちのほうはやりたくないとか、そういったやりたい、やりたくないとか、そういったことでは全くなく、やるべきなのか、そしたらどうやったらやれるのか、それをみんなで工夫して、いろんな人に相談して、一つ一つ積み上げていく。これが偽らざる私どもの今の市役所の状況でございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 私がどういうふうに考えてるかという話ですけど、私は先ほどから回答を出してるんですよ。近隣の住民の方については、これは本当に深刻な問題だと、私は受け止めています。いつかはやらなければならない、それが今なのか、もっと先なのか、



そこは僕は何も判断できないです。ただ問題は、あの辺の住民の方に話をお聞きすると、撤去してほしいという考えは持ってます。しかし、下田市の財政が心配だというふうに言ってるんですよ。いいですか、ここなんです。だから僕は、これから国の制度が制定される可能性が出てきたわけですよ。そういった関係で、今の時期ですぐ倒れるというような状況でないのであれば、やっぱり市長自ら市民にあまり負担させることがないように、国へ、あるいは県に動いてみたらどうですか。私はそこが大事だと思うんですよ。まず、率先垂範ですよ。私はそこをお願いしたい。何か回答があればいいです。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 今の矢田部議員の御発言は、要はしっかりと私のほうでアクションを起こして、そして、矢田部議員も安全を求めてあれを解体しようじゃないか、こういうことでよろしいでしょうか。返事は結構です。僕は質問する権利がないので。そのように今、私は感じたところでございます。したがいまして、それは、ほかの各議員からも御指摘があったとおり、しっかりと計画をつくって、その計画をベースにしかるべきところと話をしていく。こういうふうに進めてまいります。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） これは僕は、市長どのように解釈してるか分かりませんが、これは本当に住民の方にとっては大変だと思います。これは私もよく理解してるんですよ。決して真っ向から反対してるわけじゃなくて、今の時期かどうかということなんです。それについては、あまりにも内容が納得できるような内容ではないということです。この状況で9億から10億、半分は地方債ですよ。幾らかかるか分からないです、実際蓋開けてみないと。そういう状況の中で、今の下田市の人口減少、財政を考えた場合に、これが妥当なのかどうかということを僕は問いかけてるんです。

それからもう一つ、先ほど建設課長のほうから話がありました。この解体についての渡邊議員からの質問で、基本構想と調査が令和4年から5年、6年が基本設計、7年が実施設計、8年から10年が解体工事と、これね、この話決めて、市長の任期中に頑張ってくれりゃいいですよ。市長、将来分からないじゃないですか。令和6年が選挙ですよ。どうなるか分からない。こういうのを後の人に残して行って、あとの人たちが大変な思いしなきゃならないというケースにもつながってくると思うんですね。だから、そういった意味で、先ほど僕、市会議員の選挙は来年、再来年は市長選挙があると。先ほど庁舎の建設、また先ほど戻ります

けど、後で戻りますから、庁舎建設の話は逆戻りします。今は取りあえず下田グランドホテルの話をしてるんですけども、その件については、やっぱり僕は非常に危険が伴ってるというふうに感じてるんだよね。だから、そういった意味では、一つぜひ考慮していただいて、何事もやるのはいいけども、私は正直言って神経使わなくてもいいことに物すごい神経使って疲れちゃってるんですよ、私は、本当のことを言うと。神経使わなくてもいいような話だったと思います、僕は。それをもっと前向きな話で神経使ってこうしようああしようというなら僕は喜んで取り組みますよ。だからそこら辺が非常に僕は不安なの。どうですか、市長。議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 危険を放置して、今の子供たちの未来、つまり次の世代へ課題を先延ばしすることこそが、私は市長として無責任な態度だというふうに考えています。したがって、なるべく早くこれについても動かす。市庁舎についても同じです。先ほど申し上げたとおり、ようやく形が見えてきた。これらについて、私たちはこれからもスピード感を持って当たりたいと思います。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 今の市町の答弁は、僕は違うと思うんだよね。なぜ違うかといったら、言ってることとやってることが違うと思いますよ。だって、庁舎建設を先延ばしにしてるじゃないですか。いいですか、これ財政が大変で金を、地方債を起こしてやるわけですよ。だから僕は言ってることとやってることが違うような気がするんだよね。庁舎建設に考えてみてください。先延ばししたのはあなたですよ。それが結局こういう形で先送りになって無駄な金が出ていくわけですよ。だから、庁舎の話にまた戻っちゃあれなんですけど、今取りあえずはこの話で進めていきたいと思いますが、もし回答がなければ次のステップに進みたいと思います。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 先延ばしではなく、必要な見直しを行ったとさっき申し上げたとおりでございます。

以上です。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 庁舎建設は先延ばしですよ。いいですか。

次の話で僕行きたいと思いますが、PCBの話は本当大事な話で、発がん性のあること

ですから、アスベスト同様早急に手を打って回答ください。

それから、先ほど施政方針も見ました。この内容で、これから出てきますけども、次に質問させていただきますが、3番目の1市3町のごみ処理事業の問題について。これは、僕は広域事業に対しては反対はしてません。私はね。ただ問題は場所なんです。先ほどの教育長にも質問させていただきましたけども、やっぱり一番大事なことというのは何でしょうかね。やっぱり地元の住民の方、それから、子供さんを持つ親、中学とか認定こども園があるわけですから。

この施政方針に戻ります。市長は、ここに6ページです。施政方針の6ページに大事なことを言ってるんですよ。南伊豆地域ごみ処理事業については、施設整備に向けた事前調査に着手するとともに、循環型社会実現のため1市3町が連携し、住民と一体となった4Rの推進に向けた合意形成を含め、今後、地球環境での環境問題に対してということを書いてあるわけです。これなんですか。教えてください。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） すみません、質問の趣旨が私理解できないので、もう一回お願いします。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 私が言ったのは、まずあその場所だと、私が一番心配してるのは、要するに地元の住民の方への協力、それと、子供さんを持つ親の人に対しての説明会、先ほど環境課長いろんなことを言ってましたよ。あれはそんなに役に立つような話じゃないですよ、中身聞けば。それよりも一番大事なことは、この地元の住民、それと子供さんを持つ親の方にちゃんとした説明がされるかどうか、これ施政方針に書いてあるじゃないですか。だから、そういうことを考えた場合に、僕はここがクリアできればあの場所がいいですよ。反対する理由ないですから。地元の人たちが賛成すればね。そういうことを言ってるんです。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 直近の地元である西本郷区というんでしょうか、あそこの方々を対象とした説明会と、それから、市民全体を対象とした説明会、こうしたことを今続けておりまして、つい昨日だったと思うんですけど、ワークショップという形で、みんなでごみ問題を考えようということをしています。

今の施設があその場所に建設されたのは随分昔の話でございまして、その後、その上のほうに開発がなされました。中学校もそこへ移転となりました。今のごみ焼却場は、既に法律の

改正に合わせて相当の改修が行われて、そして、その結果、あそこから大昔は真っ黒な煙が出てたような煙突が、今は水蒸気のみという、そういう状況でございます。これについては、科学的データで私たちが常に監視しているものでございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 私は地元の住民、子供さんを持つ親に説明の場を求めているんですよ、そこだけ。今、市長が言われた南豆衛生プラントで地元の人と話をしましたと、これ渡邊議員も言ってましたけども、議員が8名で地元の方は三、四名で、ほかの人が入って十四、五名の説明会ですよ。これで責任果たした。市民文化会館で、僕両方出てますから分かります。あそこにも議員の方たくさん来てました。そんな状況の中で、しっかりとした説明ができてるかどうか。

議長（滝内久生君） 環境対策課長。

環境対策課長（鈴木 諭君） 昨年5月に実施しました西本郷区への住民説明会並びに7月に実施しました市民説明会で、なかなか参加人数が少なかったというような御指摘がございますけれども、その中で説明すべきことについては十分に説明をした上で、広報等におきましてこういった構想ですとか、今後のワークショップといった取組について説明しているところでございます。

先ほどの答弁でも申し上げましたけれども、今後、環境アセス等を実施していく中でもまた住民説明会等を予定しているところでございますので、そういった形で今後も住民に対する周知等は十分に図っていくように努めたいというふうに考えております。

以上です。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） じゃあ先ほど環境対策課長のほうから、環境アセスメントに要する費用が5,660万7,000円が、今度予算計上されてるんですよ、3月に。これ間違いないでしょうか。

それともう一つ、このごみ処理事業については、69トンの炉の建設費が約100億2,000万円かかるんですよ、100億2,000万円。その中で、下田市と3町で下田市の負担金額が約18億6,000万円、これについて僕は非常に大丈夫かなというような気持ちもあるんですけども、ごみ処理事業というのはやらなきゃならないから、できるだけ前向きに検討しなきゃならないだろうなというふうに考えておりますけども、ただ問題は、環境アセスメントに要する費用

が5,660万7,000円、委託先は決まってるんですか。

議長（滝内久生君） 環境対策課長。

環境対策課長（鈴木 諭君） 初めの答弁で申し上げたとおりですが、令和4年度に実施する委託事業ということで、今後、入札をして、業者等を決定していく予定でございます。

以上です。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） いいですか、何で逆、逆で出るんですかね。予算計上が5,660万7,000円ですよ。委託先決まってないでしょう、まだ。そこを言ってるんですよ。予算は予算計上で出てきてるじゃないですか。だから、予算計上はこの3月に予算が計上されてるんですよ。その委託先が決まってない状態で予算計上するというのはいかがなものかということとを僕聞いているんです。

議長（滝内久生君） 環境対策課長。

環境対策課長（鈴木 諭君） 繰り返しの回答で申し訳ありませんが、令和4年度、5年度において実施する予定の委託事業について、今回、今定例会でもって予算として計上させていただいているところです。これで仮に議会のほう、予算認められれば、4月以降において入札を実施して、業者等を決定していくという流れになることになっております。

以上です。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 要するに委託先はまだ決まってないです。それでいいですね。

庁舎建設に一回戻ります。時間が大分少なくなってきたんで。先ほど中途半端になったので、もう一度お尋ねしますけども、この計画、これ一回課長のほうから、ちょっと皆さんに説明していただきたいんですが。傍聴の方もいらっしゃいますので。西館の各課が中学に移動するというのと、ありますよね、決まったのが。それをちょっと答えてもらえますか。

議長（滝内久生君） 企画課長。

企画課長（鈴木浩之君） 今回の先行移転方針につきましては、現時点におきまして、市役所現庁舎の本館部分、本館に入っている各課を中学校へ先行移転させたいという計画としております。西館につきましては、耐震補強を行った上で新築の建物が完成した時点で西館については新築部分へ移行させる予定で進めていきたいという計画としております。繰り返しのようになりますが、今回、先行移転を計画しているのは、本館に入っている各課及び別館の建設課を予定しているところでございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 仮設議場は、お尋ねします。

議長（滝内久生君） 企画課長。

企画課長（鈴木浩之君） 現時点におきまして、まだ計画段階でございますが、議会の皆さんとの意見交換会の中で、第1回の会合において、仮設の議場については御相談させていただいたところでございますが、議会の皆さんからも短期間における仮設の議場についての経費は適切ではないのではないかという御意見をいただいた中で、2回目の説明会においては、仮設の議場はなく、議会及び議場については中学校で一時的に対応するというところで、現時点におきましては、計画として進めているところでございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 要するにまだ決まってないということだね、議場もね、どうなるか。皆さんの意見を聞いた上でということ。

先ほどスケジュールのことを僕ちょっと中途半端で終わっちゃったんで、もう一度質問させてもらいたいと思います。

この新庁舎のスケジュール表が、令和4年と令和5年で基本、実施設計となっております。庁舎は令和8年12月開庁と、3年あればできるじゃないですかと僕質問したことあるんです。僕、市長だったらできないかもしれないけど、ほかの人がもしやるとしたら3年でできますよ。どうですか、その辺。

議長（滝内久生君） 企画課長。

企画課長（鈴木浩之君） 設計あるいは施工の方法につきましては、様々なパターンがあるかというふうに認識しております。現状におきまして、基本計画、実施設計、新築工事という形で進める現在のスケジュールにおきましては、通常必要となるそれぞれの期間を積み上げたものでございますので、基本設計、実施設計でおおむね2年、新築工事でおおむね2年ということ想定しているところでございます。今後、様々な計画が進む中で、こちらについては変更はあろうかと思えますけども、現時点の計画としてはお示しの資料のスケジュールとしているところでございます。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 令和8年12月でしょう。新庁舎をコンパクトに造って。僕はちょっと違うと思いますよ。だから、16億5,000万円かけるわけでしょう。新庁舎に全部投入すればいいじゃないですか、3年ぐらいの計画で。まだ時間ありますから。もっと皆さんの、議員さんとの話合いの場を僕はつくってほしいということ。この庁舎を造ったら、恐らく将来、これからの世代の人たちが何だろうと。造った庁舎は20年しか、稲生沢中学校は20年ぐらいが耐用年数でしょう。その後どうするんですかということですよ。新しく新庁舎の横に建てるような話もあったけど、それ間違いないですか。

議長（滝内久生君） 企画課長。

企画課長（鈴木浩之君） 1点、すみません、確認なんですけども、条例上の期限が8年の12月となっておりますけども、今回の計画につきましては、特に新築工事の部分が緊防債使う関係で、建物自体は令和7年度中の完成を目指しております。それを引き継いで令和8年の早い時期、早いタイミングで移転、開庁したいというふうに考えてます。条例上の期限は12月ですけども、実際の開庁につきましては、令和8年の早い時期ということで進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 今年やらないと間に合わないということですよ、緊防債は。この中学校をこういう形で、新庁舎もやはりコンパクトに造るなんていうことをやると、私はちょっと違うんじゃないかな、あくまでもそれは思ってます。だってここを解体するわけでしょう、要するにさっきも言ったけど。中学はそこへ移って20年しか耐用年数がないわけでしょう、新庁舎を造るんでしょう。だったら、新庁舎に中学校の改修費用の6億5,000万円をかければいいじゃないですか。20億円以内でやることを考えるんですよ。結論が出そうもないので、そこら辺で回答は要りませんけども、私、時間がもうなくなってきたので、最後にちょっと話ししたいことがあります。

現庁舎の耐震補強及び先行移転を含む、

議長（滝内久生君） 残り5分です。

5番（矢田部邦夫君） 分かります。現庁舎の耐震補強及び先行移転を含む新庁舎建設、旧下田グランドホテル取得、1市3町による広域ごみ処理事業と、それぞれ数億から数十億単位の下田市を左右する大きな事業の進め方のあまりのスピードに、先ほどから言ってますけども、私自身も考える時間も短く、判断に迷う怖さを感じております。私、がね、怖さを感じ

てる。一連の流れは市民への説明が何もなく、ここ大事なところです。一連の流れは市民への説明が何もなく、半ば強引な手法で議会で決まればよいというような進め方に見えるのが、私は不安を感じています。議員として市民から付託を受け、責任を果たすこともできずに毎日自責の念に駆られています。各議員の皆さんも考え方はそれぞれとは思いますが、支援者の意見に耳を傾ける必要もあると思います。このような大きな事業なのに市民に何の説明もなく、無視された状況で進めてよいもののでしょうか。例えば、パブリックコメントとか、市民と語る会を文化会館で開催するとか、広報しもだ、1月号から3月号までありますけども、広報しもだの1、2月号にすら掲載されておりません、この大事な事業は。この4月、新年度予算にそれぞれ計上されておりますが、市民には何も知らされておりません。新聞紙上の記事を見た市民の方々から物すごく反論が出ております。私のところに来ております、いろんな意見が。まだ時間はありますので、予算計上を撤回し、市民の皆さんの理解を得るために説明責任を果たしていただきたいと思っておりますが、市長としての回答をお願いします。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 市民への説明を十分に果たして、そして、理解を得て進めてまいりたいと思います。今の御意見に対しては率直に承りたいと思います。ただ一方で、矢田部議員は、昨年9月の議会において、一日も早く新庁舎建設を前へ前へと進めていただきたい、こういうことをおっしゃっています。ですから、私たちはスピード感を持ってこれからも進めてまいります。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） 確かに私は言ってますけども、6億5,000万円もかけてやるとは思ってなかったです。だから、取りあえず危険だからあっちへ移って、金かけないで、できるだけ、それで新庁舎をやれという意味ですよ。そこを誤解しないでください。

それとあともう一つ大事なことで、この施政方針の中に羽生結弦選手の話が出てますよね、チャレンジする精神、勘違いされてるんじゃないですか。下田市はここに書いてあります。失敗を恐れず挑戦と、市長、大変なことですよこれ、市民から物すごい僕苦情を受けてますよ。何だこれはって。これは下田市が失敗を恐れず挑戦して、下田市が傾いたらどうするんですか。市長の言う言葉じゃないと思います、僕は。これは気をつけてほしい。こんなことを言って市民から物すごい苦情来てますもん、私のところに。一々説明するの結構時間がかかりますし、こういう形が記事に載ってくること自体が、本当、下田市長で大丈夫なのかなと



僕心配してます、はっきり言って。それに対して回答ください。

議長（滝内久生君） 市長。

市長（松木正一郎君） 先ほどの施政方針演説の中で、最後に申し上げましたけども、私は自分への健全な批判精神を持つとともに他者への敬意も持とうというふうに自分の胸に刻んでおります。今後も皆さんの御意見にしっかりと耳を傾けて進めてまいります。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 5番 矢田部邦夫君。

5番（矢田部邦夫君） しっかり耳傾けて聞いてくださいよ。全然聞いてないじゃないですか、現実にはそれはそれでいつまで言ってもこの件に関してはそういう回答しかしないでしょうけども、実際にはほとんど市民に耳を傾けていないのが現状だと思います。

最後にちょっと僕一言言わせてもらいたいのは、昔、明治時代に矢田部強一郎という政治家が、県会議員がおりました。この方は、天城の山を越えていくたびに、多分私の憶測ですけども、この賀茂郡を救うために、ここにトンネルができれば流通関係がすごくよくなって、交流ができるようになるだろうということで尽力された方です。私もこの辺のことについては物すごく共鳴してるんですよ。これは下田の中の細川先生というのが、半世紀以上にわたって記事をいろいろ、葵学園とかいろんなところで掲載させていただいております。これ学習課にもあると思いますけど、ありますよね。

議長（滝内久生君） 残り1分です。

5番（矢田部邦夫君） そういうふうな話があって、私もこの人は、実は私の妻のひいおじいさんに当たるんです。この賀茂郡を救った方なんです。本当にそこを考えなきゃいかんですよ。今の下田市というのは本当に危険ですよ。私は忠告しておきます。

以上で終わります。

議長（滝内久生君） これもって、5番 矢田部邦夫君の一般質問を終わります。